

### 公民科（公共）学習指導案

#### 1 単元名 経済活動のあり方と国民福祉

この単元は、「2 内容」の「B 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち」の「(3) 主として経済に関わる事項」に該当する。

#### 2 単元の目標

- (1) 活発な経済活動、個人の尊重、国民福祉の向上を共に成り立たせることの重要性を理解する。
- (2) 現実社会の諸課題に関わる資料から、必要な情報を適切に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付ける。
- (3) 経済に関わる事項について、協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現する。
- (4) よりよい社会の実現を視野に、経済に関わる諸課題を主体的に解決しようとする態度を養う。

#### 3 単元の指導計画（全体9時間）

##### (1) 指導計画

- ・単元の導入 0.5 時間
- ・日本経済の歩みと近年の課題 1.5 時間
- ・中小企業と農業 1 時間
- ・公害防止と環境保全 1 時間
- ・消費者問題 2 時間（本時 1 / 2）
- ・労働問題と雇用 1 時間
- ・社会保障 1 時間
- ・単元のまとめ 1 時間

##### (2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・活発な経済活動、個人の尊重、国民福祉の向上を共に成り立たせることの重要性を理解している。</li> <li>・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、必要な情報を適切に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済に関わる事項について、協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よりよい社会の実現を視野に、経済に関わる諸課題を主体的に解決しようとしている。</li> <li>・学んだことを調整し、新たな気づきを更に深めている。</li> </ul>

##### (3) 指導内容及び評価計画

(○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」)

次	学習内容	ねらい・学習活動	評価の観点			(B) 具体的な評価規準 (C) 具体的支援	評価方法
			知	思	態		
第1次 (2)	<div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">【学習課題】&lt;単元を貫く問い&gt;「日本経済の課題は？」</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・導入</li> <li>・日本経済の歩みと近年の課題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【ねらい】既存の知識を確認し、単元の基盤となる日本経済の歩みを理解する。</li> <li>・単元内容に関する課題を記述し、日本経済の歩みを理解する。</li> </ul>	●		●	<ul style="list-style-type: none"> <li>(B) 既存の知識で課題を挙げている。</li> <li>(C) 今後の学習によって学ぼうアドバイスする。</li> </ul>	・ワークシート

第2次 (1)	<p>【学習課題】&lt;問い&gt;「中小企業、農業に関する課題は？」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中小企業と農業</li> </ul>	<p>【ねらい】中小企業と農業に関して新たな発見をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中小企業と農業に関する現状を理解し、課題を記述する。</li> </ul>	●		<p>(B)現状を理解している。</p> <p>(C)要点を確認する。</p>	・観察
第3次 (1)	<p>【学習課題】&lt;問い&gt;「公害や環境に関する課題は？」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公害防止と環境保全</li> </ul>	<p>【ねらい】公害や環境に関して新たな発見をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公害や環境に関する現状を理解し、課題を記述する。</li> </ul>	●		<p>(B)現状を理解している。</p> <p>(C)要点を確認する。</p>	・観察
第4次 (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消費者問題(1)</li> </ul> <p>【学習課題】&lt;問い&gt;「消費者白書のデータを読み解こう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・消費者問題(2)</li> </ul>	<p>【ねらい】消費者に関わる事項について、理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・消費者コーディネーターから、具体的な消費者に関わる事項について講話を受ける。</li> </ul> <p>【ねらい】資料を根拠に表現する。さらに、社会に参画しようとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・消費者白書のデータから、思考したことを表現する。</li> <li>・課題解決のため、自分ができそうなことを記述する。</li> </ul>	● ○	○	<p>【思】(B)資料を根拠に表現している。</p> <p>(C)具体例を示す。</p> <p>【主】(B)合理的で実現可能な内容である。</p> <p>(C)他者の例を示す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察</li> <li>・ワークシート</li> <li>・ワークシート</li> </ul>
第5次 (1)	<p>【学習課題】&lt;問い&gt;「労働に関する課題は？」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・労働問題と雇用</li> </ul>	<p>【ねらい】労働に関して新たな発見をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・労働に関する現状を理解し、課題を記述する。</li> </ul>	●		<p>(B)現状を理解している。</p> <p>(C)要点を確認する。</p>	・観察
第6次 (1)	<p>【学習課題】&lt;問い&gt;「社会保障に関する課題は？」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会保障</li> </ul>	<p>【ねらい】社会保障に関して新たな発見をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会保障に関する現状を理解し、課題を記述する。</li> </ul>	●		<p>(B)現状を理解している。</p> <p>(C)要点を確認する。</p>	・観察
単元のまとめ (1)	<p>【学習課題】&lt;単元を貫く問い&gt;「日本経済の課題は？」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本経済の課題は？</li> </ul>	<p>【ねらい】資料を基に課題を深堀することで学びを深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料を基に課題を説明する。</li> <li>・課題の対応策を記述する。</li> </ul>		○	<p>(B)これまでの学びを調整し、資料を基に表現している。</p> <p>(C)これまでの学びを振り替えさせる。</p>	・ワークシート

## 4 本時の指導と評価の計画

## (1) 本時の目標

消費者白書のデータについて、考察したことを、論拠をもって表現する。

## (2) 本時の展開

(○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」)

	学習内容	学習活動	指導上の留意点・評価
導入	・本時の流れを確認	・本時の流れを確認する。	
展開	・データの読解 (ワーク1、2、3)	・ワーク1、2、3について、個人で取り組んだ後に、グループをつくり解答を共有する。	・与えられた資料を根拠にして考えるよう指導する。 ●ワーク1～3【思考・判断・表現】 ・グループで解答を共有した後、消費者白書の記述を紹介する。
まとめ	・データを選び、思考 (ワーク4)  ・自分にできることを思考 (ワーク5)	・ワーク4に取り組む。  ・ワーク5に取り組む。	・個人で取り組ませる。 ○ワーク4「任意の資料を3つ選び、消費者問題に関して、何が言えるか考えよう」【思考・判断・表現】 ・消費者白書の記述を紹介する。 ○ワーク5「あなたができることは？」 【主体的に学習に取り組む態度】 ・実現可能なこと、これまでの学習を踏まえることを伝える。

## (3) 本時の評価規準

## ア ワーク4の評価規準【思考・判断・表現】

・考察もしくは構想したことを、論拠をもって表現している。

## 判断基準

「おおむね満足できる」状況（B）と判断される例

・2つの資料を根拠とし、表現している。

「十分満足できる」状況（A）と判断される例

・3つの資料を根拠とし、表現している。

「努力を要する」状況（C）と判断される生徒の例と教師の指導

・2つ以上の資料を根拠としていない。

→次の授業で、ヒントを示し再度、思考を促す。

## イ ワーク5の評価規準【主体的に学習に取り組む態度】

・よりよい社会の実現を視野に、経済に関わる諸課題を主体的に解決しようとしている。

## 判断基準

「おおむね満足できる」状況（B）と判断される例

・ワーク4への対応となっており、実現可能なことである。

「十分満足できる」状況（A）と判断される例

・これまでの学習内容を活用し、ワーク4へ対応としており、実現可能なことである。

「努力を要する」状況（C）と判断される生徒の例と教師の指導
-------------------------------

- |  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワーク 4 への対応となっていないか、実現不可能なことである。</li> <li>→具体例を示す。</li> </ul> |
|--|

## 5 成果と課題

### (1) 成果

	ワーク 4	ワーク 5
A 評価	76%	27%
B 評価	22%	68%
C 評価	2%	5%

ワーク 4 は、スモールステップで実施したため、本実践において、「与えられた資料を選択し、それを解釈し、考えたことを表現すること」はよくできていた。ワーク 5 についても、自分ができそうな実現可能な対応についてよく書けていた。

資料を根拠にして意見を述べる力を育てるためのトレーニングができたことと、社会との関わりを意識させることができたことが、本実践の成果であると考えられる。

### (2) 課題

主体的に学習に取り組む態度を評価する際に、これまでの学習内容を活用して表現できている生徒が少なかった。これは、学習内容をきちんと理解させられていないことが原因だと思われる。知識・技能の習得について、授業を見直す必要性を感じた。また、本実践では与えた資料から選択させたが、今後は自分で資料を収集させる実践を行いたい。